

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

岐阜県 高山市

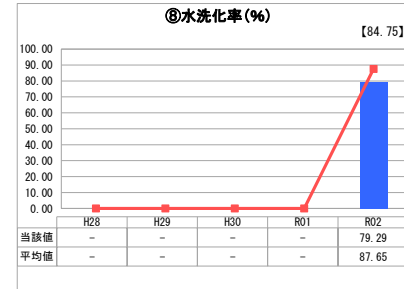
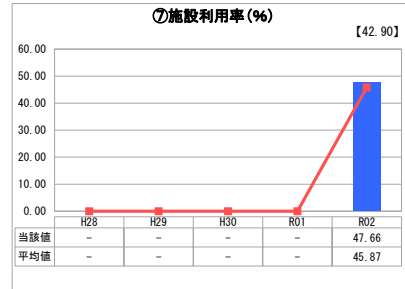
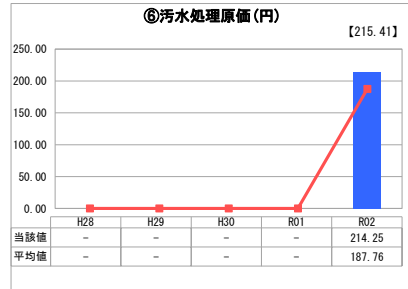
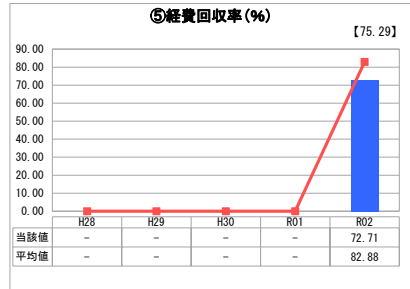
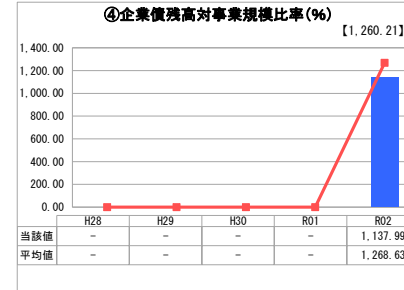
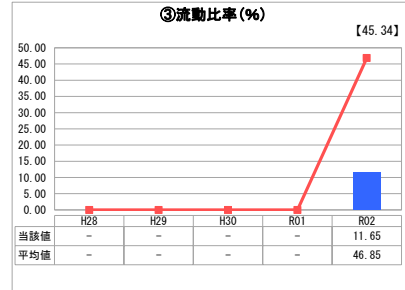
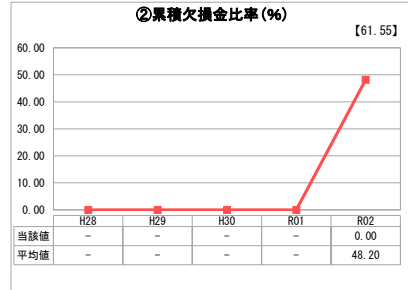
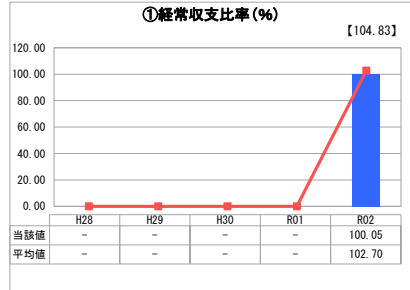
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	64.83	15.33	82.54	2,860

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
86,683	2,177.61	39.81
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
13,184	5.51	2,392.74

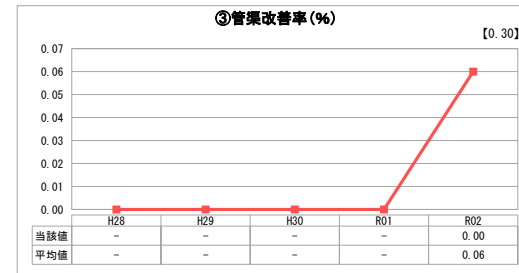
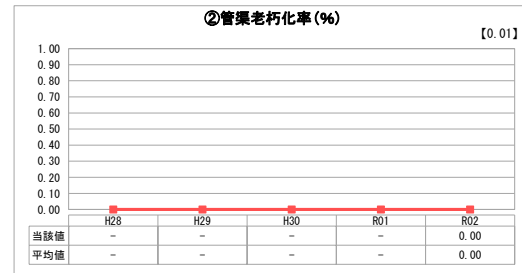
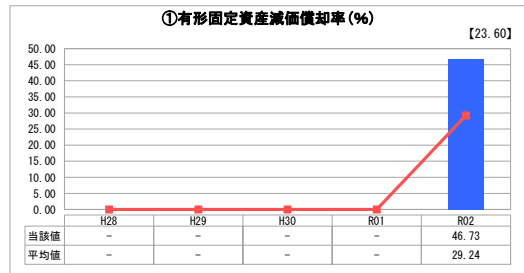
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

区域が広く山間であるという地理的要因により分散処理区となっており、10の処理施設を管理しており、維持管理費が割高となっている。  
 ①経常収支比率が100%であるのに対して、⑤経費回収率が100%を下回っているのは、一般会計からの繰入金に依存しているためである。累積欠損はないが、利益を計上できる企業体質ではない。  
 継続して水洗化の促進、下水道料金の収納確保、経費の節減に取り組んでいる。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始が最も早い処理区でも平成2年であるため、管渠の更新は必要ない。  
 設備は長寿命化計画を策定し、設備の状況に応じた更新及び修繕を実施している。

## 全体総括

下水道ビジョン・経営戦略や下水道整備5か年計画に基づき、事業費の低減と平準化及び投資と財源の均衡化を図りながら経営している。  
 社会情勢等の変化による影響を注視しつつ、将来計画の検証や検討を進める。  
 法適用初年度であるため、今後の推移については翌年度以降の本表において分析が可能となるため、経営戦略と併せて活用し、健全な下水道財政運営に努める。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。